



多彩なイベントや講演で食育の重要性をPR

6月は「食育月間」です。期間中は、全国各地の保育所や学校、図書館などで食育をテーマとした取り組みやイベントが行われます。その中核の行事として、毎年開催しているのが「食育推進全国大会」。

第13回となる今年大会では、スキージャンプ選手の葛西紀明さんの講演や、ドキュメンタリー映画「カレーライスを一から作る」の上映が行われます。さらに、展示・PRブースや地元食材を集めた飲食ブースも設置するなど、約100団体による多彩な企画を用意して、皆さまのこ米場をお待ちしています。

第13回食育推進全国大会 in おおいた

日程：2018年6月23日(土)、24日(日)

場所：ホルトホール大分およびその周辺

内容：シンポジウム、ワークショップ、展示ブース、直販・飲食ブースなど



陳建一さんによる料理の実演



管理栄養士による健康管理の講演では実践も



屋外ブースのマルシェには商業高校も出店



閉会式では高校生が書道パフォーマンスを披露

自分たちの食育活動について意見交換

※写真はすべて昨年度のもです。

「MAFF TOPICS」では、農林水産省からの最新ニュースなどを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けいたします。取材・文/丸山 ことえ

あふラボ ドローンでカワウを撃退



ドローン

漁業被害をもたらすカワウ

内水面漁業の漁場となる河川や湖は、海に比べて水産資源の量が少なく、全国の内水面漁業協同組合がアユやヤマメの放流、産卵地の造成など資源保護活動に取り組んでいます。しかし、その活動に水を差しているのがカワウによる捕食被害です。

カワウは1日に約500gもの魚を食べるため、養殖場の魚や放流された稚アユが大量に被害に遭い、深刻な問題となっています。これまでロケット花火や銃器による対策が取られてきましたが、より安全で効果的な対策として、ドローンを使った被害防止技術の開発が進んでいます。

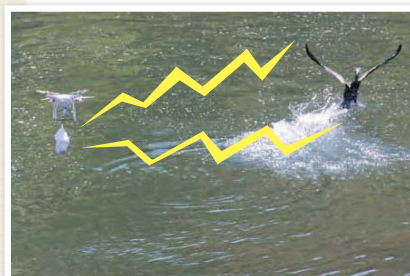
安全かつ確実にカワウを追い払う

カワウ対策を研究している中央水産研究所内水面研究センターの坪井潤一さんによると、ドローンの長所は、高い木の上や住宅街に近い河川など、安全性や騒音の問題でこれまで対策が行き届かなかった場所でも使えること。ドローンで果の近くの木にビニールひもを張って繁殖を防ぐ、ドローンにつけたスピーカーからの音で追い払うといった対策が、目覚ましい成果を挙げています。さらに、繁殖抑制のため果にドライアイス投入する技術も開発中です。すでに19県にカワウ対策のドローンが配置され、操縦技術のマニュアルを充実させるなど普及にも力を入れています。



対策① ドライアイスを巣に投入

ドライアイスを巣に投入して卵を急速に冷やし、ふ化を抑制する。これまで人の手で投入してきた危険も多く、ドローンを使った投入技術の確立が進められている



対策② スピーカーの音で追い払う

ドローンがスピーカーから音を出しながらカワウを追いかけ、追い払う。効果が高く、放流場所の一部で実施しただけで広範囲のカワウを一掃できたケースもある



秋田県で行われた、カワウ対策のためのドローン操縦技術講習会の様子

あふトリビア

日本ではウミウ、中国ではカワウを使うという違いのある鵜飼。日本で使うウミウはカワウより丈夫で体が大きく、野生のウミウを鵜匠家が育てながら利用。中国では漁師が自らカワウを繁殖させ、鵜飼いに利用しています。

読者の声

読者の皆さまから寄せられた「aff(あふ)」3月号へのご意見・ご感想を紹介します。

いつもニッポンの郷土料理を楽しみにしています。今回のどて煮もそうですが、写真を見て、文章を読んでいると、その土地へ行って食べたいなぁと思います。

(30代・女性)

今回の特集を読んで何だか明るい気持ちになりました。私が住んでいる田舎でも耕作放棄地が目立ってきています。高齢化や後継者不足と言われていますが、今後、若い人たちが引き継いでくれたり、移住してくてくれればと期待しています。

(50代・女性)

ワクワクする特集で、若い世代が活躍されているのがいいですね。農業は、ITやドローンの導入により、新たな展望が広がるかと思う。6次産業化を目指したり、国内外に販路を広げたりして、新しい立ち位置をつかんでもらいたいと思います。

(60代以上・男性)

以前は女性が農業をするというイメージはありませんでしたが、女性が働きやすく、活躍できるような環境に変わってきていることを知り、農業のあり方が変化していくことが分かりました。

(20代・女性)

「木のある暮らしをもっと身近に」で、木の室内創造あそび場「感性の森」(宮城県)の写真にきげけになりました。木の恩恵で、遊び場の空気までキレイに澄み切っているような気がしました。このような空間がもっと広がるように期待しています。

(50代・女性)

感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省 Web サイト「aff(あふ)」のページから回答できます。



○編集・発行 農林水産省大臣官房広報評価課広報室
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL.03-3502-8111(代表) FAX.03-3502-8766

○編集協力 株式会社文化工房
〒106-0032 港区六本木5-10-31 矢口ビル4F
TEL.03-5770-7114(代表) FAX.03-5770-7114
編集/中村麻由美 小尾悠梨子 永瀬早紀
藤田紫奈 小竹結花
アートディレクション/室内由紀江
デザイン/石川幸彦 清水桂

News 3

今年も都心に牧場が

毎年6月は牛乳月間、6月1日は牛乳の日です。国産牛乳・乳製品のおいしさや酪農の大切さ、魅力をアピールするイベント「六本木牧場」が6月3日、東京都港区の六本木ヒルズアリーナで開かれます。

模型の牛を使った乳搾り体験コーナーやおいしいご当地アイスクリームを味わえる飲食コーナーなど、子どもから大人まで楽しめる企画を展開。都会の真ん中で、普段触れる機会の少ない酪農を身近に感じることができイベントです。



コツを教わって上手に乳搾り



日本一イケメンな酪農家は誰だ?

※写真はすべて昨年度のもの。



牧草ベッドは柔らかくて気持ちいい

六本木牧場

日程: 2018年6月3日(日)
場所: 六本木ヒルズアリーナ
住所: 東京都港区六本木 6-10-1

六本木
牧場

クイズの答え

航空機

違法操業の防止や水産資源の適切な保存管理などを目的として行っている漁業の取締り。水産庁では、全国8カ所に44隻(2018年3月末現在)の漁業取締船を配備するほか、広大な日本の排他的経済水域を効率的に取り締めるため、4機の取締航空機を配備し、上空から漁船の操業状況の把握、漁業取締船と連携した取締りを行っています。



News 2

浜の活力を取り戻そう! 優良事例を表彰

漁業者が自らの知恵と行動で漁業を活性化

地域によって水揚げ魚種や漁獲量などの状況がさまざまな各漁業地域の活性化を図るためには、地域の実態に合わせ、浜ごとに取組んでいくことが重要です。

そこで、各浜が漁業収入の向上とコスト削減を目指し、漁業者自らが具体的な取組を行う「浜の活力再生プラン」が全国で実施されています。これは、各地域の漁業者が、所得を5年間で1割以上増やすことを目標に、それを実現するための計画を市町村と連携しながら、策定するものです。

これまで、全国で計659のプランが策定され、おおむね7割の地区で漁業所得向上の目標を達成しているという成果が出ています。

今回、その中から、優れた取組みを行った地区の表彰が行われ、高知地区地域水産業再生委員会清水部会が農林水産大臣賞を受賞、航空機による高鮮度サバの輸送、鮮度保持対策の強化、漁具製作・修繕に漁師OBを登用するなどの工夫が評価されました。

「土佐の清水サバ」をさらなる高みへ

高知地区地域水産業再生委員会清水部会 (高知県)

ブランド魚「土佐の清水サバ」の首都圏への輸送を、これまでの陸送に加え、航空便を活用し、高鮮度で提供した結果、出荷数が大幅に増加。また、定置網で獲れた魚を船上で血抜きなどの鮮度保持対策も強化。平成28年の漁業所得は、平成23～25年の平均に比べて21%向上しました。



農林水産大臣賞

水産庁長官賞



「こがわ」と読んでもらうために

小川地区地域水産業再生委員会 (静岡県)

漁業者が鮮度や品質の高いサバを提供し、漁協と加工業者が協力して「さばチキン」などの商品を開発。これらを地域のイベントや店舗で販売。小川のサバの知名度向上を目指す、地域一体となった取組が評価されました。

入札制へと転換し、魚価を向上

岸和田臨海地区地域水産業再生委員会 (大阪府)

荷揚げ場所を集約し、統一した鮮度保持対策を実施。相対取引から競り取引に移行し、魚価単価の向上を図りました。さらに品質・鮮度保持を徹底したシラスやスズキを「泉州プレミアム鮮魚」としてブランド化しました。

水産庁長官賞

